

かい ぎ ろく
会 議 録

かいぎめい 会議名		れいわ ねん ど さがみはらしがいきくじんこんわかい 令和6年度相模原市外国人懇話会				
じむきょく 事務局		こくさいか でんわ ちよくつう 国際課 電話042-707-1569 (直通)				
かいさいにちじ 開催日時		れいわ ねん がつ にち にち ごぜん じ ふん ごぜん じ ふん 令和6年8月18日(日) 午前10時00分～午前11時00分				
かいさいばしょ 開催場所		プロミティふちのべA会議室 さがみはらしちゅうおうくかぬまだい (相模原市中央区鹿沼台1-19-15)				
しゅつ 出 せき 席 しゃ 者	い いん 委員	5人 (別紙のとおり)				
	た その他	5人 (副市長、市関係課職員)				
	じむきょく 事務局	4人 (国際課長、他3人)				
こうかい か ひ 公開の可否		■ か 可	□ ふ か 不可	□ いちぶ ふ か 一部不可	ぼうちょうしゃすう 傍聴者数	6人
ぎ だい 議 題		<p>1 さがみはらこくさいこうりゅう 国際交流ラウンジにおける こ ちごがくがくしゅう にちじょうせいかつ しえん 子どもの語学学習や日常生活の支援について</p> <p>2 かいごほけん 介護保険サービスについて</p> <p>3 がっこうきょういく 学校教育について</p> <p>4 た その他</p>				

議 事 の 要 旨

1 さがみはら国際交流ラウンジにおける子どもの語学学習や日常生活の支援について

(バックマン委員)

このテーマについては、さがみはら国際交流ラウンジと話し合いをした。ラウンジでは、子ども向けに学習支援を行っており、その支援の中で日本語を教えることもある。8月には夏休みのイベントとして各国の遊びを通して交流できる企画を実施している。また、日本の生活様式を知ってもらうため、税金やごみの分別方法など生活に関わる日本の制度やルールについて10か国語で説明する生活オリエンテーション動画を作成しているとのこと。

ラウンジとの話し合いの中で、ラウンジが外国人市民に知られていないという話がでた。清掃工場の見学イベントをやるという話がでたので、そのようなイベントを通じて、多くの人に知ってもらうように引き続き対応してもらいたい。

これからのラウンジに期待することは、困ったことがあればラウンジに行き、困ったことがなくてもラウンジに集まって情報共有ができるような場所にしてほしい。気軽に外国人市民が立ち寄ることができて、たくさんの情報交換ができる場になってほしい。知名度を向上できるアイデアがあれば引き続き、ラウンジに伝えていきたいと思う。

(石井副市長)

市民全体にラウンジが知られておらず、ラウンジだけではなく、様々な市の施策が知られていないという意見を聞くこともある。そのために何をするかは市でも色々と考えている。

(バックマン委員)

ラウンジを知ってもらうためにイベントを企画しても、イベントによっては日時が決まっているので、参加できない人もいるのではないかと。入りやすい雰囲気も大事だと思う。

(石井副市長)

口コミやネットワークも効果的で、利用者から広めてもらいたい。また、市でも市長のSNSを使用するなどのPRを考えていきたいと思う。

2 介護保険サービスについて

(劉委員)

外国人でも介護施設に入れるのかということと、施設に入れた場合でも、言葉や文化の違いから困ることはないのかということが不安であった。

ただ、これまでの会議の中で外国人市民も、基準をみれば介護サービスを受けられることが分かった。自分の希望にあった施設を選ぶことが可能であり、言葉や文化の問題についても、施設と話し合い、どんなサービスがあるかを施設から教えてもらい、自分が入りたい施設を自分で決めることができる。

外国人だからということではなく、だれでも急に介護が必要になる場合もあるので、事前に調べることが大事である。介護保険制度については相模原市のホームページにのっており、多言語で表示ができるので、もしサービスを受けられず困っている事例があれば、相模原市に連絡をして相談しようと思った。

(石井副市長)

国籍に関係なく介護が必要になる場合はある、介護保険は国籍問わず使用できる。日本語が得意でなくとも通訳を介せば意思疎通ができるので、気軽に問合せをしてほしい。実際の知り合いで介護保険を使いたい、あるいは使わないといけない状況になった方はいるか。

(劉委員)

そのような話は聞いておりますが、言葉の壁があり実際に相談までは至らなかった。

(石井副市長)

市が相談しやすい環境にすることが大事であり、もし迷っている知り合いの方がいたら、相談するようにぜひ言ってほしい。

3 学校教育について

(ヌー委員)

現在の学校教育には3つの課題があると考える。「先生の負担が大きすぎること」、「外国についての理解不足」、「いじめ」の3つである。先生の負担が減れば、気持ちに余裕が生まれ、先生も生徒も穏やかな学校生活が送れる。外国を知る教育は個性を尊重し合う社会につながる。外国人に対するいじめの原因は差別であり、外国への理解が進めば、差別や思い込みによるいじめの解消につながるのではないかとと思う。

担当する部署の学校教育課と教職員人事課と話し合ったことを報告する。先生の負担が大きすぎることについては、先生の残業時間は減ってきているもののまだ改善できるところもある。ICT化などの働き方改革を進めることや、スクールサポートスタッフという授業の準備を手伝ってくれる事務員を増やし、先生の負担を減らしていく。また先生になりたいという人も少なくなってい

ることも課題の一つであるとのこと。

外国についての理解不足については、外国人英語指導助手がいることにより、楽しみながら外国語に触れ、外国の生活や文化などに親しみ、伝統を大切にしてもらえるように教育している。日本語のサポートを必要とする生徒が多く在籍する学校には「国際教室」を設置し、互いの文化や個性を尊重し合うことができるよう、学校生活を支援している。社会科の授業で、日本とつながりがある国の暮らしや文化を伝えている。中学校では、毎年8月に英語弁論大会を行い、国際理解の大切さなどをテーマにスピーチを実施している。

いじめについては、先生向けに、様々な研修を行い、差別がなくなるように努力している。生徒向けには、授業の中で人権の大切さを伝えているとのこと。

今後に期待することは、スクールサポートスタッフやICT化を通じて、先生の負担が少しでも減るようにしてほしい。日本の先生は責任感が強いので、これ以上残業が増えたりしないようにしてほしい。発達障害などの生徒も近年増えているので、なるべく負担を減らすようにしてほしい。

出来るだけ多くの国について理解してもらい、外国人の生徒が不安にならないように今後も対応してほしい。

先生向けや、生徒向けに研修や授業を行っていることが分かった。少しでもいじめがなくなるように引き続き、対応をお願いしたい。

民間団体の経験だが、保護者が仕事で忙しく、子どもの夏休みの宿題を見てあげられないような問題が起きている。子どもは言葉の問題で宿題ができていない。ラウンジでやっている学習教室はすごくよいと思うが、保護者の送迎が必要なこともあるので、利用できない人もいる。市の立場としてこのような問題にも取り組んでほしい。民生委員やケースワーカーがいるように、例えば外国人担当というもの作り、外国人のケアを地域としてとりいれるというようなことはどうか。その中で、子どもたちのケアもしてほしい。

(石井副市長)

学校の先生の負担が大きいというのは社会的な問題になっている。学校の先生になりたい人は多いけれども、仕事が大変という印象があるため、採用試験の応募数が減っているのではないかと。情熱をもって取り組んでいる先生も大勢いるので、その方たちのためにもサポート体制を充実させたい。

いじめについては、学校だけでなく様々な社会の中にあるものだと思うが、どのように解決していくかはとても難しいことである。

(ヌー委員)

保護者が自分の子どもを理解してあげられないこともあるのではないかと。保護者も様々な価値観を持っているので、学校との連携が難しいこともある。

いしいふくしちやう
(石井副市長)

子どもと保護者の関係性、子どもと先生の関係性、保護者と先生の関係性とそれぞれある中で、お互いに話しをして自覚していくことだと思う。先生を敬うような保護者もいれば、そうでない保護者もいる。それぞれに対応していくしかないのではないのか。距離を近づけて理解し合っていくことが大切だと思う。なので、教育現場の人はいつも苦労していると思う。

外国人担当については、費用のこともあり、ここで結論を出すことはできないが、外国人の皆さんが地域の中での活動をたくさんしてくれて感謝する。先日も防災訓練に参加をしてくれたと聞いたがどうだったか。

(ヌー委員)

起震車による地震の体験もあり、自分の身を守る訓練になってよかった。子ども達が社会に出るときに、日本文化を知らないとは本人だけではなく、周りも困ってしまう。なるべく日本の地域社会に触れることがよいことだと思う。

4 その他について

(ドアン委員)

担当者と話合った項目以外に、文書で回答をいただいた項目について、話します。

感染症についてですが、情報を多言語で発信しているのか。通訳を配置するなど外国人でも気軽に相談できる体制となっているのかを担当課に質問をした。回答では、月に2回、検査結果がすぐに分かる即日検査を実施しており、医療通訳を派遣する場合もある。一部の検査の用紙は、多言語対応となっているとのことでした。

学生の税金制度についてですが、留学ビザで入国した外国人留学生の就労は週28時間に制限されており、前年度の収入に基づく支払が難しい場合がある。収入が減った人に対するサポートはあるかということを確認した。回答では、財産が災害や盗難にあったとき本人や生活をともにする親族が病気や負傷したときなどには支払を遅らせることができる。単に収入が減った方に税金が安くなるような制度はないとのこと。ただし、支払が難しい場合は、支払方法について市役所に相談できるとのことでした。

市役所内でのアルバイトについてですが、外国人市民が市役所でアルバイトをすることができるか質問をした。回答では、在留資格等による決まりはあるが、外国人市民であることによる制限は特になく、必要に応じて募集をしているので、興味ある仕事があれば応募できることがわかりました。

いしいふくしちやう
(石井副市長)

生活の困りごとについては、ラウンジで相談できるようにしていきたいと思っている。

税金については国籍問わずみな前年度の収入に応じるというルールになっている。国の制度を変えることはなかなか難しいことである。

市役所のアルバイトについては、ぜひ興味があれば応募を検討してほしいと思う。外国籍の方でも受験できるので、一緒に市を作っていきたいと思う。

しえいいん
(謝委員)

外国語教室や料理教室についてだが、これらがあれば言葉の学習だけでなく、交流もできるので、実施してほしいと伝えた。担当課のさがみはら国際交流ラウンジからは、教室をやっている市民団体をラウンジのホームページで紹介しているの、ぜひ見てほしいという回答をもらいました。

雇用については、実務経験がない場合、アルバイトを探している外国人市民に対するサポートがあるかという質問をしました。学生向けのアルバイトの取扱いはないが、市総合就職支援センターを設置して、様々な相談を受け付けていることが分かりました。

119番通報の際の多言語対応について救急車を呼ぶ緊急時に、言葉が通じること不安だという意見をだしました。119番通報を受けた際は、三者間通話で多言語対応をしており、救急車に乗っている救急隊員も携帯電話を持っているので、三者間通話で対応ができるとの回答をもらいました。

いしいふくしちやう
(石井副市長)

食事や料理は文化だと思うので、その分野で交流ができるのはすごくいいことだと思う。自分も過去に国際交流フェスティバルで色々な料理を食べたが、すごく刺激的だった。自分の好みに合うもの合わないものとあったが、文化を知る良い体験だった。

雇用については、総合就職支援センターでいくつか選択肢があると思うが、会社側がどういう人材を求めているかがはっきりしている場合もあるので、参考にしてほしい。

相模原市は中小企業が多いので、アルバイトなどの就職口は中小企業を含めて探してもらいたいのではないかなと思う。

119番通報については、コロナ過にも外国人の方が119番通報できないのではないかと話があった。そんなことはない、体調が悪ければ

119番通報してほしい。外国人市民に限ったことではないが、何でも

119番通報してしまう人がいるので、必要なときに119番するようにして

ほしい。また、もう皆さんはあるかもしれないが、自宅の近所にかかりつけのホームクリニックを見つけてほしい。そこで相談が出来れば、健康の心配事も減ってくると思う。健康は大切なことなので何かあれば相談してほしい。

(劉委員)

(本日のまとめとして、) それぞれの問題や考え方が違うが、地域社会を作っていく一員として、これからも頑張っていきたい。

以上

れい わ ねん ど き が み は ら し が い こ く じ ん こ ん わ か い し ゅ っ け っ せ き め い ぼ
 令和6年度相模原市外国人懇話会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出 欠 席
1	りゅう かな え 劉 金珠	こうぼいいん 公募委員	いいんちよう 委員長	しゅっせき 出席
2	ヌー ソッカー	こうぼいいん 公募委員	ふくいんちよう 副委員長	しゅっせき 出席
3	パックマン ジェイサンマシユー	こうぼいいん 公募委員		しゅっせき 出席
4	ドアン ティ チェン	こうぼいいん 公募委員		しゅっせき 出席
5	しえ しょうじん 謝 暁晶	こうぼいいん 公募委員		しゅっせき 出席